



元気っ子

No.299 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

梅雨も梅雨らしからぬ梅雨のまま、一気に猛暑の夏がやってきました。国からの節電要請も出ております。効果的な空調利用とコロナ対策の換気を行いながら、子どもたちにとって無理のない環境を作って参ります。保護者の皆様もどうぞ熱中症等体調管理には十分お気を付け下さい。

保育所保育指針や幼稚園教育要領等の改訂など教育改革が進んでいるその背景には「指示待ち人間をなくしたい」という大きなバックボーンがあるように感じます。これは実際にこの改革に携わっている方の講演でも仰っていました。そういった背景を理解したうえで「保育所保育指針」や先月の元気っ子でもお話をさせて頂きました「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」、また「Society5.0」やOECDの「Education2030」といった計画や指針がどのようにして生まれたのかが理解できてきます。このように国家的にも国際的にも（乳幼児）教育というものがどういう方向に向かって進もうとしているのか、また将来子どもたちに必要とされている資質（能力）とはどのようなものなのかを十分意識しながら日々の保育を実践していくことが、保育の専門性だと思います。

6月の主任コラムでも紹介がありました「ピーステーブル」ですが、今年度は年長児を中心に時々ここで話し合いをしている場面を見かけます。これまで子ども同士のトラブルがあると、すぐに「せんせー！」の声が出ていましたが、「ピーステーブル」という環境を用意することで、子どもたちが自分たちでケンカの仲直りをするようになったのは、まさに「環境を通した子どもの発達」と言えると思います。この「ピーステーブル」での狙いは「ケンカの仲直り」はもちろんのことですが、「自分の意見を相手にきちんと言葉で伝える」という大きな狙いがあります。これは「子どもの権利条約」の意見表明権の保障という側面も当然あるのですが、前段にも書かせて頂きました、将来子どもたちに必要とされている資質（能力）を育む環境の一つでもあります。それこそダイバーシティを生き抜いていく子どもたちは多様な人間、多様な意見の中で最適解を出していかないとはいけません。いわば、そのための能力を伸ばすための環境と言えます。

その他にも保育園ではこういった環境設定が様々な場面で実践されているのですが、選択制もその一つであり、ご家庭でも実践しやすいものだと思います。例えば、朝、登園するための服を自分で選ぶとか、食卓に並ぶ唐揚げを「何個食べる？」と聞いてあげるなどです。些細なことに思えますが、この些細な選択が選択の質の向上に繋がります。最初のうちは目の前にあるものの判断で選択をしますが、やがて先を見通した選択ができるようになり、自分で選んだという責任感が芽生えてきます。（余談ですが、子どもの幸福度1位のデンマークでは赤ちゃんにもこういった選択を実践しているそうです）

こういった実践を行うことで、脳のシナプスの刈り込みが正常に行われますが、逆にこれを大人がアレコレ先回りをしてやってあげてしまうと、シナプスの過形成により自己決断力などの能力が伸びにくくなるとの研究結果が報告されています。

保育園でのこういった教育は養護と一体として行うことが特性とされています。養護とは「情緒の安定」と「生命の保持」ですが、情緒が安定しないと教育はなされないということです。寝苦しい季節ではありますが、子どもたちの睡眠時間は十分に確保して頂きますようご協力をお願い致します。

（右図は睡眠時間の目安になります）

4カ月～12カ月	1日12時間～16時間
1歳～2歳	1日11時間～14時間
3歳～5歳	1日10時間～13時間
6歳～12歳	9～12時間
13～18歳	8～10時間